

令和元年度 地域振興推進費事業実績等一覧

佐久地域振興局

施策の柱	No	事業名	主な担当課・所	実績額(円)	評価	成果目標	事業実績	事業の成果
さくっと「ずく出す」プロジェクト	1	さくっと「ずく出す」プロジェクト～健康増進機器開発企業等と連携した「ロコモ」予防の普及～	佐久保健福祉事務所 佐久地域振興局商工観光課	375,597	期待どおり	○運動支援ボランティアの増加(111人→150人) ○運動支援ボランティアを活用する市町村の増加(4市町村→増加)	○6/4 さくっと「ずく出す」ネットワーク会議の開催 ○7/18、12/16 「ずく出すサポーター」フォローアップ講座の開催(参加者延べ87人) ○9/6、10/9、11/5、12/5 「ずく出すサポーター」養成講座の開催(参加者延べ164人) ○さくっと「ずく出す」フォーラムを3月11日に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	○今年度の「ずく出すサポーター」養成講座を42人が終了し、昨年度までの修了者111人と合わせて153人のサポーターを養成することができた。 ○運動支援ボランティアを活用する市町村も5市町村となり、地域の運動支援活動が広がっている。
	2	さくっと「ずく出す」プロジェクト～働き盛りのための運動セミナー～	東信教育事務所	279,032	期待どおり	○講師派遣回数10回以上 ○参加者300人以上	○6/12 働き盛りの運動セミナー体験講座を開催 参加者 6団体、15人 ○企業等が開催する運動セミナーへの講師派遣 11団体、計14回、参加者416人 ○運動用具の貸出 19回 ○文化財ウォーキングマップの活用	○小学校親子PTAニューススポーツ体験会を4回開催。働き盛り世代の運動実施率向上には、親子で楽しむ運動の紹介は有効であった。 ○運動セミナー体験講座へ参加した千曲バスやシチズンファインデバイス担当者が、自社において講師派遣事業を活用した運動教室を開催。 ○地域住民が交流を図ることを目的とした企業主催によるポッチャ交流会の企画、運営を補助した。地域で運動を楽しみ、自ら健康を保持増進できる地域づくりに貢献した。
	3	市街地におけるウォーキングトレイル(散策路)や千曲川河畔ウォーキングコース等の整備	佐久建設事務所	92,400	期待どおり	○ウォーキングコースの案内看板設置(1市町村、1コース)	○昨年度コースマップを作成した小諸市の中心市街地を巡るウォーキングコースにおいて、利用者がいつでも気軽に利用できるようにルート案内看板を設置した。 ○看板の内容、設置場所について小諸市と調整し、市が管理している既存の木柱に設置することになった。	○今後のウォーキングコースの利用を通じて利用者の健康増進が期待される。
佐久「地消地産」プロジェクト	4	地域農産物小ロット流通モデル事業(「魅力満載!夢と未来ある佐久農業」PR動画制作事業)	佐久地域振興局農政課	733,700	期待どおり	○管内の宿泊施設・教育現場等50か所にDVDを配布し、佐久地域で生産される果樹・水稲・そばの魅力に対する理解を深める。 ○直売所を核とした新たな地元野菜等の流通の仕組みを使って宿泊施設の地元野菜の利用拡大を進める。	○佐久地域の果樹・水稲・そばの生産過程及び食材等としての魅力を動画化しDVDを制作 ○軽井沢旅館組合を通じて軽井沢町内のホテル・旅館等(120施設)へのDVDの配布・活用について依頼 ○東信教育事務所を通じて管内小中学校(53校)へのDVDの配付・活用について依頼 ○6/25 地元野菜の試食会の開催1回 ○プルーンPR用パンフレットの増刷(1,000部)	○PR動画第2弾を制作し、管内の宿泊施設・教育現場等において活用してもらうことにより、宿泊施設関係者や県内外の旅行者、佐久地域の小中学校の生徒等に対して、地元食材の価値や魅力を理解していただくための取組を推進した。 ○地元野菜の試食会の開催により供給施設が増加した。(1施設→14施設) ○プルーンPR用パンフレットを各種イベント等で配布し、佐久地域の特産であるプルーンのPRができた。
	5	日本酒産地SAKU情報発信事業	佐久地域振興局商工観光課	322,153	期待どおり	○イベントの来場者数が200人以上であること ○地酒PRパンフレット(外国語版)の年間配布見込数が2,000部を超えること	○4/24 地酒PRパンフレット(外国語版)を増刷し、配布協力団体へ送付 ○5/25 軽井沢駅改札口で、観光客を対象とした地酒PRイベントを実施	○地酒PRイベントにおいて、約450人に地酒の試飲をしていただき、地酒の知名度の向上を図ることができた。 ○地酒PRパンフレットの配布量調査を実施したところ、約2,700部という結果となった。
	6	さくさく野菜食べようキャンペーン	佐久保健福祉事務所	346,446	期待どおり	○野菜摂取及び減塩の必要性を理解し、行動ができる人の増加 ・塩分チェックシートの総合点平均の減少(H30 男性14.5点 女性 12.1点) ・塩分チェックシートの判定結果 塩分が多め+かなり多めの人割合の減少(H30 男性 59.3% 女性 33.5%) ・塩分チェックシートの実施者数 1,000人 ○キャンペーン協力店舗数の増加(H30 3つの星レストラン登録店舗14、農産物直売所11) ○3つの星レストラン登録店の増加(H30 3つの星レストラン登録店舗14)	○塩分チェックシートの実施・判定結果 ・総合点平均:男性 14.8点、女性 12.6点 ・塩分が多め+かなり多め:男性 62.9%、女性 39.4% ・実施者数:3,161人 ○さくさく野菜食べようキャンペーン夏季・冬季キャンペーンの実施(ポスター、チラシ、のぼり旗、野菜レシピマップ等を活用した普及啓発)。3つの星レストラン15店舗、農産物直売所18か所、スーパー28店舗との連携。 ○普及啓発用レシピ等の作成(夏・冬野菜レシピ各5,000部、3つの星レストラン×直売所マップ5,000部) ○3つの星レストランの増加(14店舗→17店舗)	○塩分チェックシートの判定結果は、前年度から若干悪化したものの、塩分チェックシートの実施者数は目標人数を大きく上回り、多くの県民に減塩の必要性を周知することができた。 ○旬の野菜を使った料理や地元野菜が購入できる直売所、健康に配慮した食事を提供している飲食店の情報等を、チラシやマップ等の媒体を活用し、広く普及啓発することができた。 ○地域の食育関係者をはじめ、3つの星レストラン登録店や農産物直売所、スーパー等と連携し、キャンペーンを展開することができた。
いいぞら佐久カラマツ活用プロジェクト	7	佐久カラマツ林業推進事業	佐久地域振興局林務課	699,389	期待どおり(見込み)	○イベントへの参加・出展 1回、森のフェスティバルの開催 1回 ○講演会、検討会の開催 1回 ○高校生を対象とした林業体験ツアーの開催1回 ○森林・環境教育の実施 5回 ○県民の佐久カラマツの認知度向上及び利用拡大を図る。(平成31年度目標 主伐面積100ha 主伐後の再造林70ha)	○9/21 森の恵みフェスティバルには、林業関係団体と連携し、一般参加者約200人が来場。幼児から大人、様々な人の「森の恵み」体験を実施。 ○9/21 森林フォーラムには、建築関係者など約50人が来場。講演会、意見交換等を実施。 ○森林・環境教育は小学校等4校に13回実施(約180人が参加) ○12/7 高校生の林業体験ツアーは2高校、25人が参加。 ○12/10・11 東京で開催されたWOODコレクションに佐久ブースを出展(約240人が来場)	○カラマツ材製品をPRし、利用拡大に寄与することができた。 ○高校生に「林業」を知ってもらうことで、将来就職する際の選択肢の一つに加えてもらう契機とすることができた。 ○主伐及び再造林の推進に向けた取組を進めることができた。(平成31年度(令和元年度)主伐面積約100ha(詳細集計中)、再造林72.48ha(補助実績))

施策の柱	No	事業名	主な担当課・所	実績額(円)	評価	成果目標	事業実績	事業の成果
星空・宇宙を学び、楽しむプロジェクト	8	佐久地域広域観光推進事業	佐久地域振興局商工観光課	2,065,152	やや下回る	○佐久地域への観光客の前年以上の増加を図る。(平成30年15,887千人)	○「広域観光情報発信カード」としてポストカードを8種類作成し、125,000枚を軽井沢町内で配布 ○7/8 地域の魅力ある観光地域づくりセミナーを開催 ○7/13、9/28 軽井沢駅で佐久エリア観光PRを実施 ○11/2 「佐久エリア星空観賞バスツアー」を開催 佐久地域の小中学生25人、保護者20人が参加 ○2/24・25 「星空観賞モニターツアー」を実施 首都圏在住の16人が参加 ○3/12～3/14、3/24 新型コロナウイルス感染症による広域観光風評被害拡大防止のため、観光施設において消毒作業を行うとともに、誘客のためのPRを実施	○「広域観光情報発信カード」は、17施設6イベントで配布。事業HPへのアクセスは毎月1,000件前後、うち英語・中国語ページが各300件前後あり、情報発信効果が認められる。 ○星空観賞バスツアーの参加者は、佐久地域の星空の魅力を学び、星空をテーマとした観光地域づくりに取り組む機運が醸成された。 ○モニターツアー参加者からは、ツアー内容について高評価を得た。委託先である信州たてしな観光協会では、台湾をターゲットとしたツアーの商品化に向けて取組を開始している。 ○平成31年(令和元年)の佐久地域への観光客数は15,312千人(速報値)となり、前年比4%減。浅間山の噴火や令和元年東日本台風の影響を受け、誘客の効果は伸び悩んだ。
高い晴天率を活かした青空の下で楽しむプロジェクト	9	ポールを使ったウォーキングによる健康長寿をめざすヘルスツーリズムの仕組みづくり	佐久地域振興局商工観光課	199,800	やや下回る	○モニターを募集してポールを使ったウォーキングによる効果測定を実施しエビデンスを取得する。 ○効果測定結果を踏まえ、観光関係者等を対象とするセミナーを開催し、ヘルスツーリズムの実現に向けた理解を図る。	○4/16、7/9 生体情報・活動量測定及び健康に関する聞き取り調査を実施 ○9/17 調査業務完了・完了報告書受領 ○ヘルスツーリズムの実現に向けたセミナーは、3月9日開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。	○健康への影響に関する調査の結果、BMI、脚筋力、痛み、活力面での改善がみられた。また、主観的評価では、モニターの4分の3が、身体面、心理面、活動面のいずれかの効果が認められた。
	10	小海線沿線や幹線道路周辺のビューポイントの発掘とその魅力発信、視点場の整備	佐久建設事務所	-	-	令和元年東日本台風の影響により事業中止		
佐久地域の移住スタイルの探求	11	佐久地域の移住スタイルの分析・類型化と情報発信	佐久地域振興局企画振興課	2,181,233	やや下回る	○セミナーやツアー参加者のアンケート満足度80%以上	○9/23 東京都(移住・交流情報ガーデン)において「信州佐久地域」移住・教育セミナーを開催 ・参加者24組50人 ・参加者満足度:9割以上 ・参加市町村等:4市町村・2団体(佐久市、佐久穂町、北相木村、御代田町、学校法人茂来学園大日向小学校、(一財)軽井沢風越学園設立準備財団) ○移住専門誌(TURNS)のWeb版に管内移住者2人の取材記事を掲載し、佐久地域のライフスタイルを全国に発信 ○信州佐久地域移住体験ツアー及び登山愛好家向けの佐久地域移住セミナーの開催を予定していたものの、台風や新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。	①セミナーの開催を通して、子育て世代を中心とした首都圏で移住を希望している多くの方に、佐久地域の魅力を知ってもらうことができた。 ②移住専門誌への記事掲載(2件)を通して、佐久地域での魅力的な暮らしをより多くの方に知ってもらうことができた。 ③登山愛好家向けセミナーは中止となったが、情報が掲載したヤマケイオンライン特設ページの募集期間中閲覧数が13,800にのぼるなど、魅力的な山が身近にある佐久地域での生活を広く発信することができた。 ①～③いずれも、今後の移住者やつながり人口の増加に寄与したと考えられる。
佐久地域の特色ある教育・子育て環境のPR							○発行部数180,000部の「山と渓谷」に記事を掲載し、全国の山岳ファンに浅間山の魅力を発信した。 ○噴火警戒レベル2でも楽しめる周遊登山や、安全登山啓発の内容も盛り込み、効果的な情報発信を行った。 ○平成31年(令和元年)の浅間山登山客数は26.3千人(速報値)。天候不良や8月の小規模噴火、令和元年東日本台風の影響により伸び悩んだ。	
固有の資源としての活用	12	浅間山魅力発信事業	佐久地域振興局商工観光課	1,620,000	やや下回る	○浅間山の魅力について情報発信することで更なる登山客の増加を図る。(平成30年41.7千人)	○5/15 山岳情報誌「山と渓谷 6月号」とタイアップし、浅間山への登山誘客のための記事を掲載	
しあわせ信州創造プラン2.0に基づく取組	13	佐久地域就業促進・働き方改革推進事業	佐久地域振興局商工観光課	641,278	期待どおり	○地元企業の事業内容を紹介することで、地域産業について一層の理解と認識を深めるとともに就業意識を高め、地域への就職機会増加を図る。	○1/20 管内の高校生向け「佐久地域企業説明会」の開催にあたり、参加企業向けの事前説明会兼プレゼンテーション能力向上セミナーを開催。 ○2/4 「佐久地域企業説明会」を佐久一万里ホテルで開催。34社とハローワークから、各ブースで高校生向けの説明を実施した。	○事前説明会兼プレゼンセミナーには31社から37名が参加。講師から、高校生向け説明の留意点を企業担当者にインプットした。アンケートでは80%の企業が参考になったと回答。 ○企業説明会には8高校から228名が参加。アンケートでは、93%の生徒が佐久地域の企業理解が深まったと回答。企業も、80%が参加して満足と回答。
地域計画の推進のために必要な事業	14	佐久管内県機関の情報発信事業	佐久地域振興局総務管理課	220,000	期待どおり	○各世帯への確実な情報の浸透を図るため、毎週1回以上、定時における情報発信を行う。 ○佐久管内における各機関からの時宜を得た話題や、長野県行政の担う業務、活動を放送内容として、理解を深めていただく工夫をしながら、住民の皆様へ情報発信をする。	○令和元年12月6日から放送開始 ○エフエム佐久平において、毎週金曜日の7時21分から約8分間にわたり、佐久管内県機関から住民の皆様にご覧いただきたい情報を発信する番組の放送を実施した。	○コミュニティエフエム放送であるエフエム佐久平を活用して、毎週1回、定時による情報発信を行うことで番組の浸透を図ることができた。 ○佐久管内県機関の職員が番組に出演し、アナウンサーとの対話形式で放送することで、分かりやすく情報発信を行うことができた。

執行区分	令和元年度	平成30年度
当初予算額(A)	10,700,000円	10,700,000円
実績額計(B)	9,776,180円	10,610,023円
執行残額(A-B)	923,820円	89,977円
執行率(B/A*100)	91.4%	99.2%

評価区分	令和元年度	平成30年度
期待以上		1事業
期待どおり	9事業	13事業
やや下回る	4事業	
期待以下		
合計	13事業※	14事業

※中止1事業含めず